



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン (第 85 号 2019/4/1 発行)



<<https://www.iima.or.jp/>>



\\1. 理事長 渡辺博史 コラム／

東南アジアの近況

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2019/20190401watanabe.pdf>>

月末から、シンガポール、タイと周り、また OECD 会合で何人かの東南アジア関係者と話が出来たので、少しご紹介…

\\2. 専務理事 倉内宗夫 コラム／

インドで考えたこと (モディ政権の 5 年)

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2019/20190401kurauchi.pdf>>

作家堀田善衛は 60 年以上も前にインド各地を旅した思いを「インドで考えたこと (岩波新書、1957 年初版)」で次…

■ ホームページ 「IIMA の目」

短編コラム「IIMA の目」を、ホームページ最上部にて毎週初更新掲載しています。是非ご覧ください。

<<https://www.iima.or.jp/research/column/index.html>>

1. 「中東経済シリーズ ～ドバイの不動産市場動向～」 九門康之
2. 「アセアン域内の現地通貨利用拡大 ～タイバーツ～」 竹山淑乃
3. 「GAFA など大手 IT 企業が金融安定にもたらすリスクとは」 矢口満
4. 「新興国金融市場 ～適切な政策運営が安定持続の鍵」 福地 亜希

■ IIMA Global Market Volatility Index ・ 購買力平価グラフの更新

<<https://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>>

≪掲載内容≫

- IIMA Global Market Volatility Index
(グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数)
- 購買力平価グラフ
(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

1. 「年金制度改革に挑むボルソナロ政権」 森川央

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2019/338_j.pdf

ブラジル経済は回復中だが、足取りは重い。今後は内需主導の成長への転換が望まれるが、そのカギを握るのは年金制度改革である。新政権の意気込みは高いが、今後の国会審議は難航も予想される。

2. 「How Far is Shanghai INE Crude Oil Futures from an International Benchmark in Oil Pricing?」

Jie Zhang, Naoki Umehara

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2019/NL2019No_4_e.pdf

インターン生による英文書き下ろしレポート。2018年3月に上海で取引開始となった人民元建て原油先物市場について、WTI や Brent の先物市場と比較しながら、中国の金融・経済改革と人民元国際化との関係も含めて客観的な分析視角を提示する。

3. 「ウズベキスタン経済の現状と課題」 九門康之

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2019/NL2019No_4_j.pdf

2016年に第二代大統領に就任したシャヴガト・ミルズィヤエフは、前大統領の支配構造を継承しつつ、市場経済を導入した国造りを進めている。市場経済への移行途上にあるウズベキスタンをマクロ経済の視点から議論する。

4. 「Uzgekistan's Economy: Recent Development and Its Challenges」 Yasuyuki Kumon

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2019/NL2019No_3_e.pdf

「ウズベキスタン経済の現状と課題」の英語版

5. 「ガーナ経済の現状と課題」 藤井陽介

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2019/NL2019No_3_j.pdf

本稿ではモノカルチャー経済であるガーナの経済および財政状況を分析した。2018年にはIMFからの拡大信用ファシリティが終了し、経常赤字、財政赤字は改善しつつある。また、近年ガーナに接近を図っている中国による、投資および融資状況についても調査した。

6. 「膨らむ米国政府の債務残高と財政赤字容認論」 武田紀久子

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2019/337_j.pdf

戦後最大の規模へ拡大しつつある米国の政府債務残高。米国債市場がこれを全く材料視せず、超低金利環境が継続する中、

米国では主流派から異端的なものまで、様々な「財政赤字拡大容認論」が展開されており、注目を集めている。

7. 「スタグフレーション下で大統領選挙を迎えるアルゼンチン」 森川央

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2019/336_j.pdf

アルゼンチンは通貨危機の後遺症で、景気後退と高いインフレーションが続いている。金融市場の安定のため政府とIMFはインフレ終息を優先し緊縮策を採っているが、労働組合は実質所得の回復をめざし高い賃上げを要求してくる。交渉は難航が予想されるが、そうしたなかで2019年は大統領選挙が控えている。マクリ大統領の再選に黄信号が灯っている。

8. 「インドの金融セクターのリスク評価」 中村明

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2019/NL2019No_2_j.pdf

インドでは、銀行再編と民営化による経営効率の改善が進まないなかで、政府から中銀への圧力により国営銀行を通じた採算性の低い融資が増える可能性がある。この点が、ようやく進捗し始めた不良債権問題の解決の障害となるおそれがあるため、注意を要する。

■ 今月の IIMA

今年の東京の桜の開花日は3月21日と、平年より5日早いものでした。先週末にはIIMAの近くの桜並木（通称「江戸桜通り」）も満開となり、それを背に写真を撮る観光客及び新入社員らしき若者を沢山見かけます。

しかし、その穏やかな風景とは裏腹に世界の政治・経済は先行き不透明感が漂っています。英国は3月21日にEU首脳会議で6月末までEU離脱を延期する案を提示しましたが、各国首脳が拒否し、逆に4月12日までに「合意なき離脱」か「離脱の長期延期」を選択するよう英国に通告しました。わが国では景気の腰折れの可能性が生じており、3月の月例経済報告では「景気は緩やかに回復している」との判断を維持する一方、輸出や生産の弱さを明示するなど表現ぶりを3年ぶりに下方修正しました。

こうしたなか、IIMAも新しいメンバーを迎えて2019年度のスタートを切りました。今年度もタイムリーかつ価値のある情報発信に努めて参ります。

【バックナンバー】

<<https://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>>

【次号】

2019年5月7日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<<https://m.entryform.jp/m/iima/>>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<<http://get.adobe.com/jp/reader/>>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <https://www.iima.or.jp>

Copyright(C) IIMA All Rights Reserved.